令和９年度
予算編成方針

自分らしく　ハッピーにスモール（住もうる）タウン

奈良県 三宅町

2026.10

所信表明

問い続けよう、
私たちの未来のために

少子高齢化・人口減少が進むなかでも、すべての住民の幸せを高める政策を打ち出し続け、「賢い縮充のまちづくり」をめざします。10年、20年、30年後の三宅町のために今できることを一人ひとりが考え、予算で“可視化”します。

令和8年10月1日　三宅町長　森田 浩司

豊かさとは何か
幸せとは何か
真のWell-beingとは何か

これまでの“当たり前”を疑い、
三宅町にとって本当に必要なことを
事業化する

予算編成方針

誰もが自分らしく
幸せに暮らせるまち

住民のニーズを把握し、短期・中期・長期の三宅町を見据えた施策を立案・実施します。次の3つを軸に、失敗を恐れず挑戦する文化を対話から生み出し、「伴走者」として共創のまちづくりに取り組みます。

- 暮らしに身近な施策
- 持続可能な行政財政運営
- 人材の育成
- 共創のまちづくり

予算編成のポイント

① 暮らしに身近な施策

地域に飛び出し、一人ひとりのニーズを把握して住民に寄り添う。部署の垣根を越えて事業を実施し、相乗効果を生み出す。

② 持続可能な行政財政運営

骨太の方針を三宅町版にアップデート。物価・金利の動向も注視し、事業の最適化・財源確保・計画に基づく要求を徹底。

③ 人材の育成

対話を通じたチームづくりで組織力を高める。副町長による勉強会を新設し、研修・調査研究の時間と機会を確保・共有する。

Point 2　持続可能な行政財政運営

01

事業の最適化

骨太の方針を三宅町版にアップデート

物価高騰・金利上昇を注視し、

適切な経費見込で要求。

経費や業務を減らす投資は積極的に。

02

財源の確保

自主財源は限られている。

企業版ふるさと納税・特別交付税・

地域未来交付金などの活用を

係単位で浸透させる。

03

計画に基づく予算要求

各種計画に基づく要求が原則。

現状に合わない計画は見直し、

理由を説明できるように。

策定・改訂時は住民との対話を必ず。

政策予算のサイクル

01 準備期
（0年目）

▶

02 トライアル期
（1～2年目）

▶

03 オペレーション期
（3～5年目）

▶

04 効果検証
見直し・廃止

令和9年度は三宅町第2次総合戦略の最終年度にあたる「オペレーション期」。

真に必要な事業を見極め、限られた財源で最大限の効果を発揮できる予算を編成します。

既にオペレーション期の事業は効果を検証して継続の有無を議論し、見直し後は再び準備期へ。